



呉ローターアクトクラブ創立35周年記念講話

演題「ロータリーから何を学ぶか 一品格ある人になる為に」

講師：大之木 精二（呉ロータリークラブ）
（2014年3月9日（日）－於：呉阪急ホテル）





1. ロータリーの誕生

- ・1905年(M38)2/23 米国、シカゴ市で提案者ポール・ハリス外3名の友人の集まりからスタート。
- ・何故ロータリークラブを作ったのかー「淋しかったから」。
- ・P.Harrisのシカゴ市での孤独感ーバーモント州ウォリングフォードの懐旧
- ・一業種一会員の限定社交団体と定例会合の原則
- ・定款:①会員同士の親睦 ②事業上の利益の促進
- ・会の名称:会合場所の持ち回りから「ロータリー」





2. 奉仕概念の導入

- ・ドナルド・カーター氏入会拒否事件 1906年
- ・定款第2条目的の項に③を付加－「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」
- ・最初は慈善行為、施設寄付等社会奉仕が中心
- ・会員の為だけのロータリーに対社会的視点がもたらされる。
- ・「親睦と奉仕」がロータリーの両輪





3. Service理念を持ったロータリーへの転換と職業奉仕

- ・アーサー・F・シェルドンによるサービス理念の導入
- ・職業人の集団であるから各会員の職業を通じて社会に奉仕する観念
- ・「職業を通じて社会への奉仕」(職業奉仕= Vocational Service)

イ) プロテスタンティズム(キリスト教清教主義)に基く天職論

- ・天から与えられた世の為人の為になる職業がVocation
— 高い倫理性の裏付け
- ・ひたすら勤勉、節約、忍耐をもって仕事に精励し、その結果の利益は神からの預りもの故、その一部は社会の役にたつよう還元すること。





ロ) シェルドンのサービス理論に基く職業奉仕

- ・儲けを最優先にする商売から脱して、他人にサービスすることが仕事の成功につながる。
- ・持続し繁栄する企業に共通してみられる特性のことを「サービス」と称した。即ち顧客の喜びと満足を最優先にする企業は売上も増え、利益を得て継続的発展が信用を形成する。
- ・利益はステークホルダー(事業に関与した全ての人々)のお蔭であると感謝し公正に配分することで、結果として高い職業倫理を備えた企業となり、更なる発展を促す。
- ・高い職業倫理—自分の欲望を制御して常に他人のことを先にする寛容の心。





ハ)ロータリーにおける2つの公式標語

「超我の奉仕」“Service Above Self”(フランク・コリンズ)

ー 「奉仕第一、自己第二」

「最もよく奉仕するもの 最も多く報いられる」ー 原因結果論
“Our profits most who serves best”(アーサー・F・シェルドン)

ニ)ハーバート・テラーの「4つのテスト」(Four-way Test)(1931年)

実行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか

- ・職業倫理の指針
- ・職業奉仕の物指し





4. Serviceと奉仕

- ・Service: 人の役に立つ考えや行為のこと (Thoughtfulness of others & Helpfulness to others)
- ・日本語に適訳の言葉がないので「奉仕」と翻訳したが、本来の意味と異なる。
- ・ロータリーはサービスをもって人間活動の基本理念とする運動である。
- ・「人の役に立つ」というサービスの精神は、より良い社会を造ると共に、本人の幸せに通じるものである。





5. ロータリーとは

- ・その目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことである。
- ・利他と利己の調和を目的とした人生哲学である。
- ・宗教でもなければそれに代る何ものでもない。それは只古くからある道德観念を、現代生活、なかんずく職業生活に於て実践しようとするものである。
- ・その目的はサービスの心をもって各分野の向上を目指す。
 - ①会員個人の向上
 - ②会員の事業の向上
 - ③会員が属する業種全体の向上
 - ④会員の家を初めとし社会全体の向上(ガイ・ガンデーカー「ロータリー通解」(1916年))





6. ロータリーから学ぶもの

- ・「親睦 (Fellowship)と「奉仕」(Service)がロータリー運動の両輪
- イ)ローターアクトクラブの土台となり魅力である友情の醸成
- ロ)奉仕の心の根源である欲望の自己制御
- ハ)人と人との絆を深める寛容の心

※ ロータリーから学びそれらを実践する人は「品格の人」である。





7. 「品格の人」とは

- ・「品」: 「人や物に備わる好ましい様子」「人柄」
- ・「気品」: イ) ใดことなく感じられる風格
ロ) 何となく漂う凜とした感じ
ハ) さりげなく醸し出される優雅さ
- ・「陰徳」: 自分の善行でも敢えて表に出すことをしない。
「陰徳陽報」(陰徳を積んだ人にはよい報いが表われる)
常に他人のことを思いやり、自分のことは抑えて他人をたてる。
人間誰しも欲望があるが、自分の欲望を抑えて他人の欲望を優先させる。「上品」
- ・「品格の人」: 何ごとに於ても、どんな人に対しても寛容の心で接し、他人の幸せを心から喜べる有徳(=徳がそなわっている)の人
※徳 = 言行が人の道に合っていること

